

■栗田定之丞(如茂)
くりたさだのじょう
意次側用人・1767＝

秋田久保田藩の役人で、海岸砂防林事業に献身した。

秋田の久保田城下で、下級藩士高橋勝定の三男に生まれる。

田沼意次老中1772＝ 5歳：

雨月物語刊・1776＝ 9歳：

家が貧しく、藩の掃除役の家に養子に出されそうになったのに抵抗して免れ、

・・・・・・1780＝13歳：栗田家の養嗣子となり、定之丞如茂と改名。

蘭学階梯・・1783＝16歳：大御番出仕となり、

蝦夷初調査・1785＝18歳：

田沼意次失脚1786＝19歳：

・・・・・・1788＝21歳：御金蔵物書加勢に抜擢され、
定勢に進んで、会計業務を誠実に果たし、

混浴禁止・・1791＝24歳：定加勢に取り立てられるが、疲労が日増しに強くなって、ついに退職。

ひたすら回復に努めるとともに、

松平定信引退1793＝26歳：この頃、妹のように可愛がっていた養子先の娘とも結婚、

ワヅガ 正月・1794＝27歳：

写楽・・・・・・1795＝28歳：

グロート来航・1796＝29歳：

昌平饗始・・1797＝30歳：

この頃、長男が誕生。体調も回復して、復職を願い出していたところ、
認められて、唐船見御番を命じられ、河辺郡百三段新屋村で日本海沿岸警備に当って、
*海岸一帯の状況をつぶさに見たことから、林取立役を命じられ、郡方御物書となって砂留役を兼任することになると、困難さに同僚が逃げ出してしまうなか、一人で、土地の人の体験を詳細に聞きだすとともに、植物の特性なども調査して、合理的な方法をあみ出し、

伊能測量始・1800＝33歳：*植林事業に着手、

7月カ船来航始1803＝36歳：

青洲麻酔手術1805＝38歳：その労に報いて、佐竹藩から20石加増されるも、相変わらず人夫への賃金は出なかったが、何とか激励して事業を続け、

げノ報復・1806＝39歳：*新屋村の肝煎が連名で事業への感謝と期待の一方、引き続き賃金無しの労務に延期も願い出ると、藩に村方指導者を表彰するように申し出て、工事を遂行させ、

続いて、秋田郡の植林事業に着手、

高田屋拿捕・1812＝45歳：

伊能測量終・1816＝49歳：この年から3年かけて、

水野忠成老中1818＝51歳：

群書類従完結1819＝52歳：砂留を完成させると、

・・・・・・1820＝53歳：*退職し、

蝦夷地直轄終1821＝54歳：

日本外史・・1827＝60歳：長年の砂防林事業の功績で55石を給されが、まもなく、没した。